

もっと知りたい ワクチンで予防できる病気のこと。

●子宮頸がん

子宮頸がんとは、子宮の入り口にできるがんのことです。最近には特に、20代から30代の女性で患者が急増しています。進行すると、子宮を摘出するだけでなく命にかかわることもあります。子宮頸がんは、発がん性のヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。このウイルスに感染すること自体は決して特別なことではなく、性交経験がある女性であれば誰でも感染する可能性があります。

●細菌性髄膜炎

細菌性髄膜炎は乳幼児によく起こり、脳や脊髄を覆う髄膜に細菌が侵入して炎症を起こします。難聴や脳性まひなどの重い後遺症が残ったり、死亡に至る場合もあります。小児用細菌性髄膜炎の原因菌は、ヒブ(インフルエンザ菌b型)が60~70%、肺炎球菌では20~25%とされています。いずれの細菌も多くの子どもが喉や鼻の奥に持っている細菌ですが、体力や抵抗力が落ちた時に、髄膜炎など命に関わる病気を引き起こす恐れがあります。

○ヒブ(インフルエンザ菌b型)による細菌性髄膜炎

多くの場合は生後3カ月から5歳になるまでの子どもがかかります。2歳未満のお子さんに多く、全国で毎年約600人の乳幼児がヒブによる髄膜炎にかかっています。

○肺炎球菌による髄膜炎

全国で毎年約1,000人の子どもが肺炎球菌による髄膜炎にかかっています。かかった子どもの半分以上は0歳児で、年齢とともに減ってきますが、5歳ごろまではかかることが多い病気です。

**ワクチン接種は
全て任意です**
これらのワクチン接種は、法律に義務づけられたものではなく、接種対象者の保護者の希望による任意の予防接種です。

また、子宮頸がんの予防については、ワクチン接種だけでは十分ではありません。ワクチン接種の開始前に、がん予防に対する正しい知識を身につけていただくよう、対象者、または保護者を対象に講演会を開催

する予定です。
なお、講演会の日程などについては決定次第お知らせします。

問合先

健康推進課
353160



総合交流センターの内観完成イメージ

●総合交流センター整備

検討委員会を 設置します

高山市総合交流センターの整備については現在、その計画を一時休止しています。これまで「広報たかやま」などで計画内容をお知らせし、ご意見を募集してきました。

今後はお寄せいただいたご意見を参考に、「高山市総合交流センター検討委員会」で検討を進めていきます。

高山市総合交流センターの整備については、昨年、市民のみなさんから多数のご意見を寄せいただきました。今回、意見募集の結果を参考に、さらなる検討を進めるため、「高

山市総合交流センター検討委員会」を設置します。

委員会は関係団体の代表者や市職員で構成し、整備の是非や施設の規模、機能、事業手法、整備場所などについて検討を行う予定です。

第1回検討委員会を開催

期日 4月12日(火)

時間 午後1時30分～

会場 市民文化会館(昭和町1)

この委員会とはなたでも傍聴することができます。なお、委員会の内容は、市ホームページなどでお知らせします。

問合先

駅周辺整備課
353180